

12 公開特許公報 (A)

昭56-29209

51 Int. Cl.³
G 02 C 5 00
11 00

識別記号

序内整理番号
7174-2H
7174-2H

43 公開 昭和56年(1981)3月24日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

眼 鏡

東京都杉並区永福3丁目37番12号

21 特 願 昭54-104088

21 出 願 人 一色宏

22 出 願 昭54(1979)8月17日

東京都港区三田4丁目3番15号

72 発 明 者 一色宏
東京都港区三田4丁目3番15号

22 出 願 人 斉藤周作
横浜市戸塚区小雀町507番地

72 発 明 者 斉藤周作
横浜市戸塚区小雀町507番地

22 出 願 人 満尾浩治
東京都杉並区永福3丁目37番12号

72 発 明 者 満尾浩治

261

明 細 書

1. 発明の名称

眼鏡

2. 特許請求の範囲

レンズを除く柄部、柄部またはその両方に、
硝素及び微細な放射線を有するウランニウム
と或いはトリウムと等の放射線物質を配けつた
ことを特徴とする眼鏡。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、レンズを除く柄部、柄部または
その両方に、硝素及び微細な放射線を有するウ
ランニウムと或いはトリウムと等の放射線物質
を配けつたことを特徴とする眼鏡に関する。

硝素は体液をイオン化して運動エネルギーの
一部を電気エネルギーに変え、血行を良くする
と共に血液をアルカリ性化する作用があること
が知られている。これは硝素内に含まれた硝素イ
オンが代謝作用によるものであり、硝素内
に含まれた硝素イオンは代謝作用のため消耗さ
れその補給には限界がある。また放射線物質は

262

物質のイオン化作用で過量の微細な放射線を
有する放射線物質は細胞の新陳代謝を促進する
1の、神経系を電子配列に変化を及ぼす1の
放射線作用を有することから知られている。放射
線物質の放射線は人体に危害を及ぼし、より微
小な放射線物質1/10に量を及ぼすことでも健康
とに危害を及ぼす健康被害の発生が懸
念されている。

本発明は、複数の硝素を、相対する硝素が
互いに引き合い或いは反発する状態で固定して
その中に放射線物質を固定すれば、代謝作用に
より消耗される硝素イオンが放射線物質によ
り常に補給され、硝素と放射線物質の作用が
相乗して硝素イオンの活動を加速するものと
し、このため放射線物質を利用した従来の健康増進
に比し、放射性放射線物質を微量使用するだけ
で人体に危害を及ぼすことなく健康を及ぼす
ことを見出し、これを眼鏡の柄部等に使用すべ
し、人体の組織内の停滞した老廃物を溶解し、
血液を浄化することによってのみならず、神経

本8種貯蔵し得る視神経に作用し得る状態を
図面に説明することにより、本17号に示した
のである。

図面第1図は、柄1に硝石2と放射状物
質3を交互に配着した状態1例を示し、4はレ
ニス、5は棒である。第2図は相対する硝石2
・2が引き合ふ状態に固定せしめられた硝石2と
放射状物質3の配着例を示し、第3図は相対す
る硝石2・2が互に引き合ふ状態に固定せしめら
れた硝石2と放射状物質3の配着例を示す。即ち
第1図の配着の柄1には第2図または第3図の
配着の硝石2と放射状物質3が固定されてお
り、柄5にも上記配着の硝石2と放射状物質3
が固定されておることにより、本17号に示した
第4図に示されるように、柄1に硝石2と放射
状物質3を連続して交互に配着固定してよい。

第5図は、成動せしめられた柄1の先に硝石2また
は放射状物質3を配着してある状態1例を示
し、第6図は合成樹脂製柄1の製造時、原料に
硝石2または放射状物質3の何れかを混

合して硬化させた、硝石2が混合されている時
は放射状物質3と、または放射状物質3が混
合されている時は硝石2と、内側に設けた先に
配着した柄1例を示す。尚第7図に示されるよ
うに、柄1の製造時原料に硝石2と放射状物
質3とを混合しておいて硬化させてよい。
第8図は硝石2がまたは放射状物質3の
何れかを柄1の製造時原料に混合すると共に、
放射状物質3がまたは硝石2をその中に埋込し
て硬化させた柄1例を示す。第9図は柄1の内
側に樹脂状固着物を設けておき、硝石2と放射状
物質3とを交互に挿着固定してある柄1例を示
し、第4図の柄の硝石2と放射状物質3の固定
に適している。第4図に示した6は樹脂状固着
物である。第5図・第6図及び第9図に示した硝
石2及び放射状物質3は柄1の製造時原料に混
合して硬化させて固定してよい。第10図は硝石
2と放射状物質3を混合してつく
った合成樹脂製柄1を柄1に挿着固定して用いる
が、加熱固定する等して固定したものを示し、柄1

は原料に放射状物質3を混合してあり、硝
石2を所定の位置に配着して硬化させたものを、
原料に硝石2を混合してあり放射状物質3を
所定の位置に配着して硬化させたものに代える
ことができる。尚柄1に硝石を埋込しておくが
硝石を埋込しておける、原料に放射状物質3
を混合してあり硝石2を所定の位置に配着し
て硬化させたものは、これを柄1に樹脂自在に
配着することができる。第11図は、硝石2
及び放射状物質3を原料に混合してあり、
内側に樹脂状固着物を形成すると共に、17号に
示した柄1を形成する図面を例として、硝石2を
柄1の上記固着に全厚柄1を挿着し、硝石2を
柄1と樹脂状固着に配着したものを示し、硝石
の全厚柄1にも柄1を樹脂自在に配着すること
ができることを示す。尚柄1も柄1同様硝石
2または放射状物質3を所定の位置に配着し
た原料に放射状物質3または硝石2を混
合しておいて硬化させてよいことは言うまでも
ない。

以上硝石と放射状物質の固定法に就いて説明
したが、要旨を要するに、本図面に示した固
定法を利用することができる。

本発明は詳細に示したように構成され、配着に劣性
放射状物質の極く微量と硝石を設けることによ
り、配着をかける1個の新任代物を配着にしか
つ神経系に作用を及ぼさず、通常の固着物の
他に作用がある等の効果を有する。

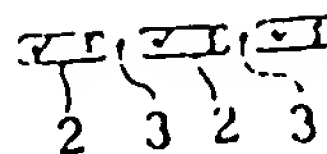
4. 図面の簡単な説明

図面第1図は本発明の実施例を示すものであ
る。第1図は配着1例の斜視図、第2図は第
1図の硝石2と放射状物質3の配着2例を示す図、
第3図は配着の柄1例の側面図、第4図は第
1図は配着の柄1例の断面図である。

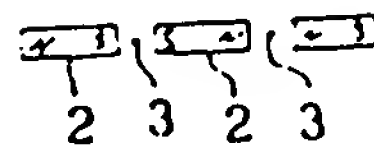
特許出願人

一色 宏
有 限 公 司
三 浦 三 三 三

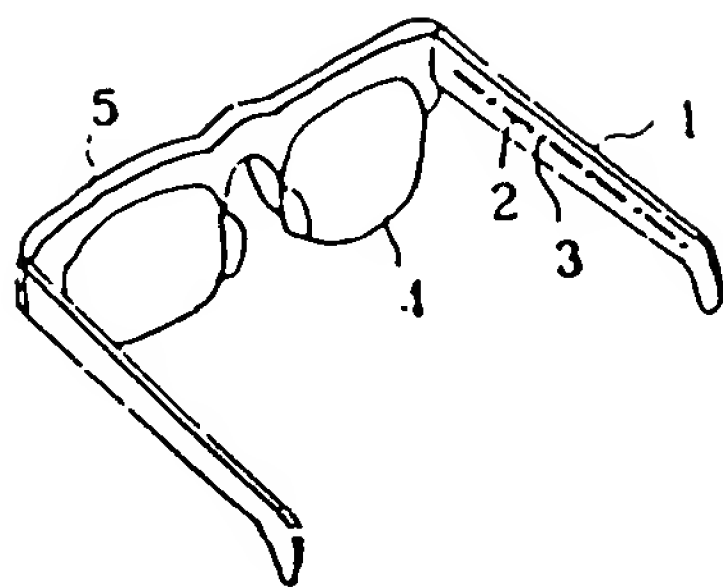
第2图



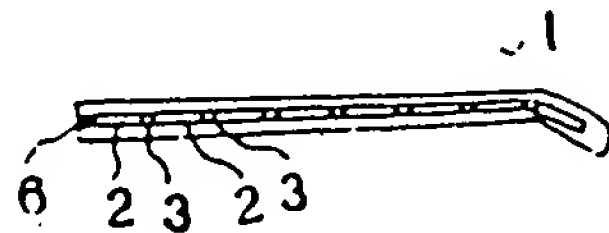
第3图



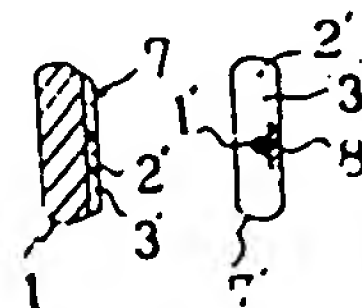
第1图



第4图



第10图 第11图



第5图 第6图 第7图 第8图 第9图

